東京新聞　2016年（平成28年）5月9日（月曜日）　栃木

桃太郎山車 103年ぶり「出陣」

明治時代から大正初期にかけて、宇都宮市中心部の宇都宮二荒山神社の秋の大祭「菊水祭」で活躍し、市民有志らによって復元された「桃太郎山車」が八日、百三年ぶりに生まれ故郷の宇都宮市新町（旧・南新町）で披露された。記念の巡行には多くの地域住民が集まり、よみがえった勇壮な姿に惜しみない拍手と歓声を送った。

（中川耕平）

宇都宮市民有志ら復元　市内で記念巡行

桃太郎山車の復元を手掛けたのは市民約三十人でつくる「宮のにぎわい　山車復活プロジェクト」。プロジェクトによると、山車は江戸時代末期に南新町で原型が造られ、大正初めの一九一三年まで菊水祭を盛り上げた。使われなくなってからは、南新町の複数の場所で部品ごとに保管されていた。

二〇一三年秋にプロジェクトの活動を知った南新町下組自治会から部品の一部を寄贈され、修復に着手。一九一三年当時の巡行の写真など、わずかな資料を頼りに人形の顔などを解明した。

専門業者の協力もあり、約二年半をかけ今年三月末に、高さ最大約五・六五メートル、重さ約一・四トンの山車が完成。桃太郎人形は、赤色を基調に金や緑色の鮮やかな刺しゅうが施された陣羽織を身に着け、右手に日の丸が入った扇子を持った往時のりりしい姿を取り戻した。

小中学生ら300人が参加　「昔の技術感じられた」

この日は、プロジェクトのメンバーをはじめ、地元の小中学生ら約三百人が参加。おはやしが演奏される中、桃太郎にちなんだキジ、サル、イヌの格好や法被姿で山車を引き、新町などの一帯約二キロを練り歩いた。路上では多くの住民が見守り、写真に収めたり、歓声を上げたりしていた。

山車に乗り、太鼓をたたいた一条中二年の三浦洋人さん（一三）は「昔の技術を感じることができ、復元できたのはすごいことだとあらためて感じた。こんなイベントに参加できてうれしい」と笑顔を見せた。

プロジェクトの田巻秀樹事務局長（六七）は「見物していた人が拍手しながら喜んでくれて、涙が出そう」と感慨に浸っていた。

桃太郎山車は完成後、プロジェクトからNPO法人宇都宮まちづくり推進機構に寄贈され、現在は宇都宮城址公園で保管されている。十月の菊水祭でも引き回される予定。

上103年ぶりに復元され、披露された桃太郎山車
下近隣住民が見守る中、山車を引き回す子どもら＝いずれも宇都宮市で